

新発田市立図書館利用者懇談会

日 時：平成27年2月9日（月）午後2時～午後4時30分

場 所：図書館3階会議室

参加者 利用者 11名

図書館長、図書館職員 5名

新発田駅前複合施設建設室 2名

- 1 館長挨拶
本日はあいにくの天気の中、11名の皆様にお集まりいただきありがとうございます。
今日は図書館をご利用いただいている皆様からのご意見、ご要望等を伺う会でございます。現在駅前複合施設全体としての計画を立てている最中でございますが、今後図書館としての運営計画を考えてまいりたいと思っております。本日のご意見の中で取り入れるべきものがありましたら、ぜひ参考にさせていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。
- 2 配布資料
新発田市立図書館のあゆみ・平成26年度図書館運営方針・平成25年度図書館行事実施状況（以上「平成26年度図書館概要」の抜粋）
平成26年度図書館行事実施状況と予定、LIBRARYガイド、じどうしつのごあんない、図書館行事カレンダー、各種申込書・受付票 等、平成26年度に開催された行事のチラシいろいろ
- 3 参加者の自己紹介（報告書では省略）
- 4 懇談会
テーマ「図書館に望むこと」について一人5分の発表
利用者 図書館が駅前に移転することについては、電車の待ち時間などに利用する人が増えるので良いと思う。気軽に来られる身近な感じの図書館になると良い。新しい図書館は想像つかないがとても楽しみにしている。
こういった懇談会に若い人もたくさん参加できるような機会を設けてもらいたい。できれば午前中のほうが都合良い。
利用者 小さな子供に図書館は楽しいところだと思ってもらえるような図書館にすれば、その母親も付いてくる。
あわせて分館の活性化もお願いしたい。

利用者 昨年3～4ヶ所各地の図書館を廻ったが、それらの図書館は友の会が充実していて、新発田市の現状に疑問を感じていた。今回初めて図書館と利用者のふれあいという形で、このような場を設けてもらって嬉しく思う。私たちがサポートできるようなことがあれば助け合って、市民の方々が楽しく利用でき、駅前がにぎわうような図書館になって欲しいと思う。

利用者 いい図書館とは誰もが気軽に立ち寄れて、また来てみたいと思うような図書館だと思う。具体的に言うと、職員の醸し出す雰囲気暖かい、居心地が良い、居場所がある(備品の質、配置が良い) 資料が充実している、レファレンスの充実、無料である。

それから、中央図書館の機能をきちんと果たす図書館であって欲しい。読書は子どもの心を育てるということから、学校の図書室と連携を図り充実させること、分館にとっても新しい図書館ができたことにより利用者の満足度が高くなるように連携して欲しい。

また、市民も参加して運営されるといい。そのためには、友の会を養成する、読み聞かせボランティアを養成するなどの講座の開催をし、市民を育てるという意味で来館者以外にも情報発信する。

図書館協議会も図書館に対して積極的に意見を出すような機関になって欲しい。

利用者 このような懇談会を年に1,2回開催して欲しい。出された意見を館内に掲示するなどして、利用者の関心を集めて市民が支持していけるような図書館にして欲しい。今回参加できなかった人たちの意見も取り入れられるようにして欲しい。

絵本の配架について。現在はあいうえお順で探しにくい。作者順だと良いのだが、変更が大変だと思うのでせめて記号の番号の後の文字を1文字ではなくて2文字にして欲しい。また、児童室にも検索用のPCを設置して欲しい。

図書館職員は事務職でも全員カウンターに出て利用者に接することで、図書館職員としての自覚をもってもらいたい。

利用者 図書館で一番大事なものは、気持ちの良いサービスでありカウンター業務が基本であると思うが、今はあまり大事にされていない気がする。図書館という名の役所であって欲しくない。兵庫県滝之町の図書館長のことは「カウンターは図書館員の桜舞台」を気に入っている。図書館業務に携わる人たちがどういう姿勢で市民にサービスをするかということが、図書館として全職員に行き渡っていれば良い。

図書館は職員の専門性が重視されるところで、ちゃんとした専門職が機能してこそ図書館の役割を果たせるという事が、田原市図書館元館長 森下芳則氏の講演を聴いてわかった。いいものに出会わないとわからない、学び続ける図書館であって欲しい。市民も含めていい図書館運営をしているところから学びながら、図書館はどうあるべきかを考えていきたいと思う。

利用者 自治体の決算資料などは最新のものをとり揃えてもらいたい。図書購入費も含めて、図書館全体の予算的な措置を頼む。

図書館運営は自治体の直営が基本だと思うが、職員の図書館に対する熱意と愛情がないと市民への対応が気持ちのいい図書館、居心地のいい図書館になるのが疑問である。また、コストの面からだけで委託をすると中身が問題になってくる。現在は市の直営となって、カウンター職員は親切であり気持ち良く対応してもらっているが、専門的なレファレンスサービスができる司書も配置してもらった方がより良い。効率の良い職員の人数、配置を考えて欲しい。

また、広報を活用して図書館のPRをする事。

歴史図書館が実現したら、古文書解読等のセミナーを開催して欲しい。

利用者 地方からの人口の流出が顕著な昨今、優秀な人材に郷土に戻ってきてもらい郷土で活躍してもらうためにも、郷土について学ぶ機会を設け郷土愛を育む活動を支援してもらいたい。個人のアイデンティティーの形成をバックアップするような図書館であって欲しいと思っている。

自分も高校卒業後に都会に出たが、都会の中で故郷に対して自信が持てなかった。定年後に戻ってきて、新発田は歴史もあり偉人も輩出している事を知ったが、若いころにはそれらを学ぶ機会はなかった。今、個人で調べて廻っているが、個人ではなかなか知る機会が少ない。郷土史や歴史の愛好家が図書館を通じて知り合うなど、中心に図書館があれば良いと思う。勉強会、研修会、講習会などを開いて市民が交流できる場になって欲しい。

子どもたちに、郷土の魅力を伝え愛着を持ってもらい、守ってもらうことが我々の年代の仕事だと思う。坪川洵平氏が故郷を想ったように、子どもたちに想ってもらえるようなまちになるようお手伝いして、地域の活性化に一役買いたいと思っているので、そのバックアップを図書館にお願いしたい。

利用者 図書館に魅力を感じるのには、いろいろな本に出会ってその背景にある世界と出会えるワクワク感があるからである。いろいろな分野の本に出会えるので、新刊図書のコーナー、テーマ展示のコーナー、返却棚を見るのが楽しみである。本の選択が広がり、自分の目を開かせてくれる。利用者がいろいろな本と出会えるような取り組みをこれからも続けて欲しい。お勧め本の紹介、読書会、新発田出身の有名人が勧める本などの企画で新たな本との出会いの場を作って欲しい。

介護施設を訪問すると、家族や介護職員が用意した本を読んでいる入所者が多く居るが、図書館のほうでお年寄りへのお勧め本をパックしたもの等を届けるようなサービス、入所者からのリクエストにこたえるサービス、読みづらい人向けに拡大鏡を添えるサービス等が考えられる。

新しい図書館ができたなら市民向けに見学ツアーを開催して愛着をもってもらうと良い。

利用者 宅本サービスはぜひ実施して欲しい。
新発田の宝と言われるほど、藩政史料・藩学史料・地方資料・古文書がたくさんあるということで、新発田歴史図書館が実現すれば整備されていくと思うのだが、歴史図書館にわざわざ出向くという行動を起こさない人たちがたくさんいると思う。新しい図書館が駅前にできたら、そこに歴史図書を目につくところに手に取り易い形（平台等）で配架したらどうか。すると、歴史の好きな人、興味のある人が手にとってみる機会が増えて、その後、歴史図書館、新発田城に足を運ぶきっかけになる。高校生が学習室の利用や、電車の待ち時間に手にとって見て、その道に進むかもしれない。敬和学園大学の寮生も見るともかもしれない。そんな事を考えるとワクワクしてくる。新発田駅前複合施設の内部の配置について、考慮の余地があるのであれば、新発田の歴史資料をみんなの目に触れる所に配置すれば、歴史図書館構想も、新発田の歴史資料も生きてくるのではないかと。

利用者 以前、NPOに委託していた期間に対応が悪くてボランティアをやめようと思った時もあった。今は直営になって、カウンターの対応が親切で細かくなり、とても良くなり、ボランティアを続けてきて良かったと思っているし、今後もそれらに支えられながら続けていこうと思っている。

新発田市として図書館をどのような位置付けにするのかを教育長に考えてもらって、専門職の人員配置をしてもらえば、どうしたら図書館に大勢の人に足を運んでもらえるのかわかると思うので、こういった話を上の方に話し続けてもらいたい。そうすれば少しでもいい複合施設ができるのではないかと。

広報しばたの裏表紙に図書館カレンダーがなくなった。ぜひ1か月に1度のカレンダーの復活をお願いしたい。

1年に1度で良いのでプロによる生の催し物を子どもたちに見せてあげられる行事を企画して欲しい。

ここまでの意見・質問

利用者 分館の図書・資料は申し込めば利用できるのか。

図書館 利用できる。

利用者 図書検索用PCはあるのか

図書館 本館2階に2台ある。

利用者 歴史資料整理のボランティアはいつ立ち上げるのか。

図書館 新発田古文書研究会という有志の団体があるが、会の研修として資料の解説、整理をしてもらっている。図書館が声かけをして講座を作っていくというやりかたもあるし、自主的に集まって発生していくということもある。新発田の民話を読み聞かせの題材にするとか、各自のテーマを持って参加するというのが有効であると考えている。

利用者 自分の祖先や地域を調べるとかも良いテーマとなる。

利用者 古本の配布の時にただ配るのではなくて、募金箱を設置すれば集まった金額を図書の購入に充てられるのではないか。

図書館 市で現金を集めると、市の雑入として図書館ではなくて市の収入になる。それ以外の活動例として、友の会等の団体が募金活動をして、独自に寄附をすることが活動費に充てるというのがある。新発田でやるのなら、どんな方法がいいのか検討する必要がある。ほかには、県立図書館などでは図書館の除籍本以外にも利用者が持ってきた本を交換するなど、眠っている本が必要とする人の手元に行くというように、本の文化の一環という意味で行われている。

休憩

自分が図書館でできること、ボランティア活動など

利用者 イベントごと、活動内容ごとにその都度ボランティアを募集すれば、年間通してボランティアをするより窓口が広くなり参加しやすくなる。

利用者 学校に出向いて読み聞かせのボランティアをしているが、特別支援学級の児童が普通学級の児童と一緒に参加している。楽しくなさそうな様子に心が痛む。特別支援学級の児童にはそれに合わせた読み聞かせの方法がとれるということ、図書館から学校に提案してみてはいかがか。少人数であっても対応できるし、どんな子どもたちにも笑顔になって欲しくてボランティアをしている。

登校拒否やひきこもりなど不自由を抱えている人たちに、きめ細かいサービスを届けられたらいいと思う。

小さな学校に行った時に、校長自ら読み聞かせをするなどして本が好きな子どもたちになっていたが、その学校の図書室の蔵書数がわずかしかなかった。そういった学校への支援も必要であり、支援の方法も考えなければならない。

・図書館にやってもらいたい企画、イベントについて

利用者 子どもたちが本に親しむきっかけとして読み聞かせは重要であると思う。ボランティアの協力を得て活動して欲しい。

利用者 図書館の行事が市民に周知されていない。図書館カレンダーを広報しばたに復活させて欲しい。パソコンを使わない世代は図書館の情報を得るのが容易ではない。

利用者 新発田市のブックスタートは新潟市より早く始めており13年目になるが、ブックスタートで母から子への読み聞かせの働きかけをしているのに学校では図書室が充実されてい

ない所もあり、子どもたちの読書習慣が途切れることになる。教育委員会がそれらを整備し一本化して欲しい。

また、ボランティア養成講座を開催してより多くの市民に参加を促して欲しい。

利用者 ボランティア養成講座やスキルアップの講座の開催をお願いしたい。また、市民と行政が協働するために、サポート組織の役割と受け入れ態勢についてきちんと聞きたかった。

利用者 本が不足しているような小学校と図書館の連携はあるのか。

図書館 一度に100冊、貸出期間は1か月という学校単位の団体貸出のサービスがある。

利用者 図書館友の会は利用者の立場から気づいたことを図書館と一緒に改善していきたい。そのためには友の会もボランティア活動に参加したいので、友の会を養成するような講座をやって欲しい。

利用者 学校司書の充実はすぐには難しいと思うので、図書館としての学校への支援をがんばって欲しい。

利用者 友の会は将来的に、配架・広報・研修・美化などのボランティアの役割を担っていくことを目指している。まだ、友の会としては準備段階ではあるが、対面朗読の団体とのつなぎ役ができる。

図書館職員に望むこと

利用者 図書館懇談会を開いてもらって大変良かった。図書館の基本方針策定のための専門委員会に市民も公募するということであるが、新年度に入ったら早めに準備してもらうことを期待している。

利用者 文部科学省が示している平成24年度の「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」では図書館運営方針を策定、公表し、図書館サービスの指標と目標を設定するとなっているが、新発田市立図書館で策定したサービスの指標・目標を、年報などで市民に明確に公表すれば、市民ももっと協力的になるのではないか。また、大事なものはその点検・評価に努めるという部分で、その評価の結果も公表するように努めなければならないとなっているので、ぜひ、取り組んで欲しい。

図書館 新発田市では、事務事業評価というものが全ての部署で行われており公表もされているので見ていただきたい。

利用者 飯能市というところで管理運営計画を、文部科学省が示している平成24年度の「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に沿って作り、飯能市独自の基準で評価されている。そういった取り組みを参考にすれば、いい図書館になるに違いないと思う。

利用者 広報しばたに掲載しても懇談会に若い人が参加しないのであれば、高校にお願いしてアンケートを取るとか、親子ふれあいルームに来た親子にアンケートを書いてもらうとか、図書館側から働きかけて意見を集めてはどうか。

新図書館は県立新発田病院に近くなるので、図書館で健康の話とかをお医者さんにしてもらうなどの講演会や、イベントを行った時を利用して意見を伺うなど、次につなげていくことを考えてはどうか。

利用者 坪川記念室で企画展示を行った時には、その企画のアンケートだけではなく合わせて図書館の運営に関する項目も入れた方が良い。また、意見に対する返答も掲示した方が良い。

新発田市民の学習意欲を高めるためには、図書館がもっと身近なところで文化教養の発信の場となるべきである。図書館自ら、文化団体や市民その他の人と縦に横に手をつなぎ、いろいろな講座(公民館で行っている学習会)を図書館主催で年に2回くらい公開講座として開催し、本の紹介を兼ねた事業等の取り組みなど企画運営に工夫を考えていっていただきたい。

利用者 レファレンスの充実と、中央図書館が新しくなることによって分館の充実も図られるようにお願いしたい。

利用者 新発田の将来のために図書館、図書会館を寄贈した坪川洵平氏の顕徳碑が文化会館の庭の奥に立っているが、以前は旧図書館の前庭に建立されていた。やはり以前のように市民の目に付く場所に図書館の歴史を記した石碑と一緒に立っていれば、新発田市民がより坪川さんの事を知って誇りを持つようになるので良いと思う。

利用者 新発田の図書館の成り立ちについて今日初めて知った。この話を小学生などの子どもたちにぜひ聴かせてやって欲しい。新発田の昔話と同じように残るものにしておいた方が良い。

利用者 紙芝居とか読み聞かせにしてはどうか。

利用者 坪川洵平氏の精神が、新発田の市民が自ら学んで新発田を元気にしていくということであり、駅前の複合施設に入る図書館はその思いを体現していけるのではないか。

利用者 出かける図書館、届ける図書館のサービス先について。

小学校の放課後児童クラブにも読み聞かせのサービスができるということが周知されていない。また、各小学校の特別支援学級の子どもたちを預かる放課後児童クラブが金蘭荘にあるが、そこにも読み聞かせのボランティアを派遣して欲しい。

各地域での高齢者のふれあいルームへのサービスも加えてもらうと、誰でも喜んでもらえる図書館になると思う。

その他の意見

利用者 12月議会において職員の専門性に係ることで、「配属された職場での経験が図書館運営に役立つ」という答弁があったが、司書の専門性ということでは数年で異動することがいい事だとは思わないのだが、館長以外の職員も「配属された職場での経験が図書館運営に役立つ」と思っているのか。

図書館 職員には司書の資格を持った職員も必要だが、図書館業務には図書の購入、財務関係もあり、施設管理も重要である。

また、歴史資料の中には人権に係る資料がたくさんある。新発田市立図書館の職員には人権啓発課を経験した職員もいて、公開・非公開の判断をする時に経験が役に立ち、資料を適切に展示することができる。他にも、図書の延滞に対する対応に、収納課の経験に基づくノウハウを適用し延滞数の減少に役立っている。他部署の専門的な経験が図書館に蓄積されていくと考えている。

利用者 私も事務職員として図書館に勤務したことがあるが、当時、図書館職員はほとんど司書で異動もなく専門家だけであった。旧態依然として時代に即しておらず人事交流は必要と感じた。

事務職員であってもカウンターに出るなどして図書館の重要性を理解していれば、司書の資格の有無ではなく、図書館を大事に思い、市民のためによりよい図書館にしていこうという気持ちが大事なのではないか。

利用者 司書であれば良いということではないと思っているし、図書館業務の中に事務的な業務もあるので事務職も必要ではあると思っている。しかし、市役所での専門職は異動もなく専門性を発揮している。図書館の司書も専門職として扱われるべきではないか。

利用者 司書であるか事務職であるかは大きな問題ではなく、熱意があるということが重要だと思う。トップである館長がどう人を育てるかが大事である。

また、ボランティアの組織も継続させることが難しくなっているの、行政のほうからの支援、育成が大事になってくると思う。

図書館 私どもも良い図書館を作るべく頑張っていきますので、今後ご支援ご協力をお願いいたします。